

## エンゲル係数を上げよう

三澤 俊哉

植物肉を使ったハンバーガーやコンビニのサラダを食べてみたが、いずれもソースの味が強く、食感は肉なので言われなければ植物肉だとはわからない。

最近、いろいろなところで植物肉が注目されつつあるが、なぜ、植物肉なのだろうか。

ご存じの方も多いと思うが、それにはバーチャルウォーターの概念が関係している。

環境省のホームページによれば、「バーチャルウォーターとは、食料を輸入している国（消費国）において、もしその輸入食料を生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したものであり、ロンドン大学東洋アフリカ学科名誉教授のアンソニー・アラン氏がはじめて紹介した概念」としている。さらに、「1kgのトウモロコシを生産するには、灌漑用水として1,800リットルの水が必要だが、家畜はこうした穀物を大量に消費しながら育つため、例えば牛肉1kgを生産するには、その約20,000倍もの水が必要である。つまり、日本は海外から食料を輸入することによって、その生産に必要な分だけ自国の水を使わないで済んでいる。言い換えれば、食料の輸入は、形を変えて水を輸入していることと考えることができる。」と説明されている。

最近も、いろいろなテレビ番組で取り上げられており、トウモロコシを栽培する外国の水不足を衝撃的な映像とともにご覧になった方も多いのではないだろうか。

出典：環境省ホームページ

[https://www.env.go.jp/water/virtual\\_water/](https://www.env.go.jp/water/virtual_water/)

農林水産省のホームページによれば、令和2年度の食料自給率（カロリーベース）は37%となっており、牛肉の食料自給率（カロリーベース）は11%となっている。これは上記のように海外の飼料に依存すると

ころが大きいからである。ただし、令和2年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」で指標として位置付けられた「食料国産率」は飼料が国産か輸入かに関わらず畜産業の活動を反映し、国内生産の状況を評価するとしているため、牛肉の国産率は43%としている。

出典：農林水産省ホームページ

[https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/011.html](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/011.html)

もっとも、経済的価値に着目して、国民に供給される食料の生産額（食料の国内消費仕向額）に対する国内生産の割合を示す指標である「生産額ベース総合食料自給率」は、農林水産省ホームページで67%と示されているので、何を基準とするかによる。

ただし、日本の食料が海外に依存していることは事実であり、個人的に食料とエネルギーは戦略物資と考えているのでこのままで良いとは思っていない。

一昨年のマスク不足による騒動を思い出せば、食料を外国に依存することの危険性は容易に理解できる。

たとえ植物肉が広まって、バーチャルウォーター的に改善されたとしても、その材料の生産を外国に依存するのであれば、結果的に外国に首根っこを押さえられているのである。

これを解決するのは、消費者一人一人が意識して国産の農林水産物を、適正な価格で購入することに尽きると思う。

今の若い人たちは、特に今のようにコロナ禍であれば農林水産業の方が家族と子ども、安全に暮らせるし、家族との時間を作れると考えている人も多い。もちろん、私のように還暦を過ぎた人間でもまだまだ体力がある（と思っている）ので、次の仕事として農業に携わりたいと考える人も多いのではないだろうか。

適正な価格で販売でき、農林水産業の生産者が適正な対価を得ることができれば、農業従事者不足も少しは改善するものと思う。

私の子供の頃に比べて、相対的にエンゲル係数が下がってきているように感じる。もっともっと国産の食